

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814		
法人名	株式会社 福岡総研		
事業所名	鍋島紀水苑さくら		
所在地	佐賀市鍋島町蛸久1992-1		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境の中で季節や文化を通して感情、感性を呼び起こし心豊かな生活を支援することを理念としている。
特に食の文化は大切にしている器は源右衛門や深川など有田焼を中心に季節のものなど取り入れ、視覚的にも気配りをしている。又、30品目の食材で献立をし栄養のバランスも考えている。外出がしにくい方は窓際にある小さなカウンターから広い庭を眺めながらお茶など楽しませている。秋には南向きのホールの窓からバルーンが見られ、夏は北側事務所から川上の花火大会を見ることができる。職員の手による菜園もあ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの目の前は四季折々の花が飾られた苑庭や田園風景が広がり、近くには桜並木がある等、自然豊かな環境の中で、ホームの理念である季節や文化を通じて感情、感性を呼び起こす生活支援が実践されている。特に食の文化としては有田焼の食器等を使用し、視覚的にも楽しめる気配りがしてあり、栄養バランスも考えて献立が作成されていた。
また、入居時には今後の生活の意向を入居者や家族からしっかりと聞き、その人らしい生活ができるように支援されている。特に近隣に在住の家族はよく施設を訪れ、職員との関係性もよく、お互いに情報交換をし、協力をとりながら、本人を尊重した生活支援がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人的、自然環境を最大限に生かしその中で文化を通して感性、感情を呼び起こし心豊かな生活を支援している	ホームの理念を管理者、職員は共有し、自然環境や文化的資源を活用しながら、入居者に対し心豊かな生活になるよう支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や苑イベント・消防訓練などに地域の方が快く参加され交流を大切にしている	入居者が地域の一員として生活できるよう、地域の方を招いてホームでのイベント等を開催したり、自治会の総会等にも積極的に参加し、ホームの状況を説明し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年度末の地区総会に管理者、地元の職員が出席し認知症について話をし質問等受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の方々が知りたい事が多く、その質問には答えるがまだ意見や要望はない	二ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームでの取り組み状況等についての報告を行っている。また、夜間開催より昼間開催へと開催時間を変更し、会議参加者へ入居者の状況を理解してもらい、サービス向上のための意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方にいろいろ訊ねたり運営推進会議に必ず参加して頂くように日時の打診をしてから日程を決める又市の職員が来援される時はホームのPRに努める	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議等において、ホームの取り組みを苑だよりを活用し、具体的に説明している。また、逆にホームの利用状況の照会等もされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に利用者に自由にして頂くが、生命に危険が及ぶ可能性がある場合に限って家族と十分に話し合い検討し玄関施錠をしている	管理者、職員は身体拘束をしないケアについて理解しており、入居者が自由に生活されているが、現在、家族の同意の下、ケガや事故防止の対策として、玄関は施錠している(但し、外からの出入りは自由)。	ケガや事故防止の対策としてリスクを減らすための玄関施錠ではなく、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待防止の講習を受けており職員会議等でも十分に話し合いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	フランチャイズの勉強会に参加し理解を深めている。成年後見制度を活用している方がおられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問等十分に表せるように働きかけと説明を行い、納得を得た上で手続きを進めて個別の配慮や取り組みを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日常のサービス等に関する意見や思いを伝えられる機会は日々の中で行い、出された意見や願いは日々の運営に生かしている	敬老会等で定期的に家族から運営に対する意見を伝えられる機会が設けられている。また、日々の生活より、入居者や家族の意見や要望を捉えており、入居者の状況に応じたケアに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を十分に聞き入れ、業務に極度の負担がないように常に意識している。日勤者が休む場合は代表者が代わりに勤務し業務を行っている	月1回の定例会議で意見交換を行っているほか、日々の業務で気づいたことはその都度、話せるよう雰囲気作りをし、運営に反映されている。勤務体制は職員の意向も取り入れることができるよう工夫されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半数が正社員とし、勤務年数が4～5年と長く、なじみの環境で職場も明るい。交付金の申請など積極的に行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会を開きテーマを決め皆で取り組んでいる又、フランチャイズの勉強会には参加を促したり年1回は全員で研修会や講演会に参加し、知識を深めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズでの勉強会には参加したり、他のグループホームに研修に行ったり他からの研修を受け入れたりと交流の場を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけてゆっくりと言葉掛けをし、よく話しをききながら安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から入居前の状況を丁寧に聞き要望等、できるだけ期待に沿えるように努めているが出来ないことは初めから伝える		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点で必要なことを十分に話し合い、できるだけ要望に沿えるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を保ちながら本人の負担にならないように支援する努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者中心のケアを基に家族にも支援をお願いし、協力をして頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚友人の面会時は居室にてゆっくりして頂くようにテーブルなどセットしお茶やお菓子を提供している。又、面会に来やすい雰囲気作りをしている	行きつけの美容室への外出支援等、地域での一人ひとりの生活習慣が継続できるよう支援がされている。また、家族等の面会時にはゆっくり過ごせるような雰囲気作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の係わり合いは難しい為、レクレーションやオリエンテーションなどを通して共同生活をしている事を認識して頂くように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も家族とのお付き合いは大切にしていて、今でも野菜など持ってきて下さる家族がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が分からない方は生活の中から見つけ出し本人本位のケアに努めている	本人や家族より生活歴や趣味等を聞いたり、日々の生活の中より、暮らし方や楽しみを捉え、本人の意向に応じた生活支援が行えるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞き、暮らし方、サービス利用に至った経過を知り、プライバシーに配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの流れに沿った本人の状況を総合的に把握し、できる力、分かる力を見落とさないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が気付きや意見を出し合い話し合った結果を基にサービス担当者会議を作成担当者、管理者、担当者で本人と家族の希望、要望を活かしながら行い介護計画書を作成している	日々の生活より入居者の意見や情報を収集するとともに、介護計画作成の際には、家族からのケアや生活に関する意見収集のシートを作成し、それをもって作成担当者や管理者、担当者等で協議して介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人を身近で支える職員しか知りえない事実やケアの気づきを具体的に記録し、よりよいケアの為にカンファレンスノート、気づきシートを用意し情報を共有しながら活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方には職員との外出、小旅行などの支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、イベント参加など地域との交流によりホームの事を知って頂き安全な暮らしが出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行い医師に相談がある時は身体の情報を持って受診して頂き、かかりつけ医との関係を築いている	契約時にかかりつけ医の確認がされており、入居後も継続して受診できるように支援されている。また、家族が同行しての受診時も、医師からの情報提供ができるように関係を築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回正看護師が出勤し利用者との関係作りもできており、いつでも相談できる体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談を行い、早期に退院出来るように受け入れ希望も医師に伝え連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に説明はしているが、まだ、かかりつけ医との話し合いをする段階ではない。1人の利用者に対してはかかりつけ医との連携は取れている	ターミナルケアの指針に基づき、家族へ説明し、同意がとられている。また、入居者や家族の意向は、適宜確認をしながら対応しており、かかりつけ医や職員間でも共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応マニュアルを電話前に掲示している。応急手当は看護師が随時指導いつでも聞けるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や防災訓練を行っている。その時は地域の方に参加して頂いている	地域の方や消防署の協力の下、年2回、避難・防災訓練を行っている。また、消防隊員から消火訓練や避難経路・方法等の指導も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、丁寧な言葉使いを心掛け、なじみの中にも気分を損ねないような言葉掛けをしている	初心を心がけ、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉遣いを心掛けていた。また、その人のペースに合わせ、なじみの関係のなかにも気分を損ねないような配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間は場所を決めずソファなど好きな場所に座って頂き、おやつなど提供している。又、他の方のおやつのサービスをして頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクレーションなどで無理強いせず本人がしたい事を優先し、そのペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントなどでは本人がコーディネートされ職員がアドバイスなどをして、おしゃれをして頂く		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が1番の楽しみなので目でも楽しんで頂くように器や献立に気を使っている。配膳、片付け、つぎ分け等が可能な方は積極的に参加して頂いている	食事が楽しめるように器や献立等、視覚的な配慮がされている。また、入居者は職員と一緒に、準備や食事、片づけ等ができるように工夫した関わりがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目の食材で献立をし、特にお年寄りが好きなお米は美味しいものを提供し、完食できる程の量にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、言葉掛けによりされる方、半介助の方、居室にてされる方、力に応じた支援をしている。義歯使用の方は洗浄日を決めて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に言葉掛けによる排泄の誘導や介助を行い、チェック表を基に1人1人の排泄パターンが把握されている。日中はリハビリパンツ、尿取りパットをできるだけ少なくするように支援している	言葉かけ等により排泄の誘導や介助等の支援を行い、一人ひとりの排泄パターンが把握されている。排泄支援により、日中のリハビリパンツ等の使用をできるだけ少なくできるように取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレチェック表を把握し便秘の方には朝牛乳を飲んで頂いたり、繊維質の多い料理を提供したり、入浴時におなかをさすったり、日々の体操などの取り組みをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否が多い為、お昼の時間帯にゆっくり入って頂けるよう心がけている	入浴日以外にも入浴できる体制が整えられており、一人ひとりの状態に合わせて入浴ができるようになってきている。また、入浴拒否があった場合にも、適切に声かけ等をし、個々にそった入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣、状況に応じて午睡をさせ、夜間の消灯時間は決めているが、個人のペースで消灯され、起床時間も個人のペースに合わせた支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回夜勤者で1週間分を作りケースに保管し、毎日1日分を別ケースに小分けしている。薬の説明書を1人1人のカーデスクに保管し、いつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月替わりの壁飾りを利用者に折ってもらい全員での作業にも取り組んでいる。又、特技や好きな家事手伝い等の楽しみ、役割など積極的に参加して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な方は買い物など一緒に出かけるようにしている。苑庭が広い為遠出が出来ない方も日々、少しでも散歩に出られる環境がある。近くに桜並木があり、春は花見に出かけている	入居者の状況に合わせて声かけをし、天気の良い日には苑庭や散歩等、一度は外に出かけるような取り組みを行っている。また、ゴミ捨てや買い物、花見等のように機会あるごとに外出に向けての支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は買い物時はお金を所持され、使われている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでもできるようにしている。家族から事務的な電話があっても後で本人と代わるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光が沢山入る南向きのホールからは広い庭や田園風景が広がり、居心地のよい空間を作っている。玄関やホールの壁には季節感のある飾りがあり居心地よく過ごす為の工夫をしている。殆どが昼間ホールで過ごされる事が多い。	玄関やホールの壁には四季折々の飾り付けがされており、季節感を感じながら生活できるよう工夫されている。また、日当たりのよいホールでは入居者が居心地よく生活できるようテレビの音等の配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南向きの窓際にカウンターがあり庭を眺めながらおやつを食べたり又、2人掛け、3人掛けのソファがあり丸テーブルなどでお茶をしながら利用者同士で話をされたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族との話し合いで利用者の希望の家具など入れてもらい、好みの物を活かして居心地よく過ごせるような工夫をしている。泊まりの部屋の為、洗面台や低いタンスを設置し、物を置ける工夫をしている	居室には入居者の希望に応じ、自由に使い慣れた品物が持ち込まれ、その人らしく、居心地よい生活ができるような環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下には両側に手すりがあり歩行訓練に役立っている。ホールの広い壁には皆さんで作られた季節の折り紙が月替わりで飾られ、楽しみにもなっている		